

## モデル事業で見えた課題とその対応について

(今後の検討事項も含む)

### (1) トラブル等があった際の連絡体制

事例 : 1月のクラブ活動にて、生徒のケガの報告が、指導者から学校教員に連絡があった。

対応 : クラブ指導者にトラブル発生時の対応方法を指導すると共に、えちぜんスポーツクラブにて、指導者マニュアルを作成した。来年度のクラブ活動に向けて、指導者に配布する。

### (2) 活動日、時間の変更があった際、参加者各位への連絡ツールについて

事例 : モデル事業の実施にあたり、全てのクラブで、活動日や時間、場所の変更があった。

当初は体制が整っておらず、クラブへの申込みの際、登録したメールにて連絡を行った。

アドレスの入力が無かった者、アドレスの間違いで送れなかった者、既読かどうかわからない、手間がかかるということで、決して適した連絡ツールではない。

対応 : 一斉に情報周知ができる簡単な携帯アプリを活用して試験運用を行う。

携帯アプリ『BAND』(全国の地域移行の取組みで、連絡ツールとして取り入れられている)

### (3) 警報、インフル等が出た時の実施可否について(学校部活動との兼ね合い)

事例 : 1月は、中学校でのインフルエンザ流行、2月は、大雪の恐れがあり、土日の部活動が中止になったが、クラブ活動は実施した。2月のクラブ活動の参加率にも影響。

対応 : 天候、感染症など、原因となる状況にもよるが、学校部活動の基準とするか、独自の判断基準とするか、今後検討する。

### (4) クラブ間での活動場所の兼ね合い(かぶった時)

想定事例 : 特に冬季間、屋外の活動が屋内で実施すると、活動場所が被る場合がある。

対応 : ある程度、競技ごとの活動拠点や、活動の時間帯を設定しておく。

前段階として、活動可能な町内体育施設、場所ごとに実施できる活動の把握などを、スポーツ振興課と協議、確認する。